

第31回日比経済合同委員会概要報告

(1) 開催期日： 2013年3月14日（木）

(2) 開催場所： 東京・東京會舘

(3) 出席者： 総勢98名

【日本側】 小林栄三・日比経済委員会代表世話人はじめ53名

【フィリピン側】 ユセビオ・タン・比日経済委員会委員長はじめ45名

【来賓】 グレゴリー・ドミンゴ・フィリピン共和国貿易産業大臣、ジョゼフ・アバヤ・フィリピン共和国運輸通信大臣、マヌエル・ロペス駐日フィリピン共和国特命全権大使、リリア・デ・リマ・フィリピン経済区庁長官、ディワ・グニグンド・フィリピン中央銀行副総裁等

(4) 概要：



ドミンゴ貿易産業大臣による基調講演

を高めるべく、このたび、フィリピンの地場産業の振興に向けた産業別ロードマップを取りまとめ、これが包括的国家戦略の中に組み込まれ、実施に移される予定である」と述べたうえで、「このロードマップを通じて地場産業の能力強化を図るうえで、とりわけ製造分野、特に自動車、エレクトロニクス分野において日本の中小企業の協力が欠かせない」と日本企業を重要視していることをアピールした。

「フィリピンの持続的経済成長に向けたソフト・ハード両面のインフラ整備と日比企業間の協力について」をテーマとした全体会議では、まず、アバヤ運輸通信大臣から「物流インフラの改善に向けた取り組み」について、ルソン島の南北の高速道路をつなぐ2つのコネクタ道路の建設プロジェクトやルソン島の南北をつなぐ鉄道の延伸をはじめとする鉄道網拡大計画等、具体的なプロジェクトの説明をしたうえで、「効率的かつ信頼できる運輸ネットワークがビジネスはもとより、国民生活にとって大変重要なファクターである」と強調した。

次に、グニグンド副総裁から「経済成長と金融政策」について、「フィリピンが過去5年間に遂げた予想以上の経済成長は、従来から旺盛であった個人消費のほか政府支出や投資が増大し、製造業の成長率が産業の牽引役であったサービス業の成長率を上回ったことなどによるところが大きい」と分析したうえで、「今後も安定的な成長は続き、2013年の実質GDP成長率は7%に迫るのではないかと考えている」と語った。

続いて、日本側からのスピーチとして、まず、国際協力機構（JICA）から、フィリピンにおけるインフラ整備の現状と一層の進捗に向けた課題の提案が行われ、次に、日立製作所から、日本企業のグローバル戦略におけるフィリピンの位置付けや現地での競争力強化に向けた取り組み等について報告があり、その後、参加企業間において、日比企業間の今

今回の合同委員会は、フィリピン側からドミンゴ貿易産業大臣、アバヤ運輸通信大臣、の2閣僚をはじめとする政府代表および、比日経済委員会のタン委員長を団長とする多数の経済界代表が出席し、極めて意義深い会合となった。

開会后、中小企業誘致策を含む産業振興施策について基調講演を行ったドミンゴ貿易産業大臣は、「主として東アジアにおけるサプライチェーンの中でフィリピンの競争優位性

後の協力のあり方について、ハード面、ソフト面両面からの議論が行われた。

合同委員会閉会后、昼食をはさんで、日比経済委員会、駐日フィリピン共和国大使館、国際機関日本アセアンセンター、独立行政法人日本貿易振興機構の四者共催により、フィリピン投資セミナーを開催、総勢約300名が参加した。

朝田照男・日比経済委員会代表世話人の開会挨拶、ドミンゴ貿易産業大臣の歓迎挨拶の後、ア

バヤ運輸通信大臣、グニグンド中央銀行副総裁、リリア・デ・リマ・フィリピン経済区庁長官が、フィリピンの経済情勢や投資・貿易環境、官民連携（PPP）によるインフラ整備事業について説明したほか、既進出日系企業による事例発表が行われた。

同日夜に行われた日比経済委員会主催・歓迎夕食会では、参加した両国代表団は、余興の和楽器演奏を楽しみながら親交を深めた。



フィリピン投資セミナーの様子